

図書館にある絵本の楽しさをもっと子どもたちに知って欲しい!!この想いは、私一人の行動では限界があり、ガーナの先生の力を借り一緒に授業を行なうのが一番です。これまでも、こうした授業は行なってきました。低学年で読み聞かせした「おおきなかぶ」では先生が演技指導、高学年で行なった音読劇でも先生の演技指導がありました。これらは演劇をしやすいお話しの本です。演技がしやすい本以外にも、色のきれいな絵本がたくさん図書館の本にあります。それらをどのように子どもたちに伝えようか?授業の時間内に伝える方法は何があるか?悩みながら、3年生4年生で「図書館にはこんなに素敵な本があるんだよ。」と簡単な本の紹介のみで工作をしました。4年生では、淡い色遣いで知られるエリックカールの世界を子どもたちに伝えたく「はらぺこあおむし」の絵本を紹介した後、はらぺこあおむしを作りました。新聞紙を丸めて花紙で包み、くだものを作り、細く切った紙2枚を蛇腹に折り虫を作り、その上に乗せました。子どもたちの小さな手にはエリックカールの世界がありました。3年生では、トイレトペーパーの芯を使い恐竜を作りました。図書館には恐竜の絵本、図鑑、パズルがあります。その恐竜の本をもっとたくさん子どもたちに手に取ってもらいたく、工作の準備をするのに時間はかかりましたが、授業当日を迎えました。予め恐竜の形に切られ、グルーが塗られたトイレトペーパーの芯に和紙をちぎって貼っていく子どもたちを見て、恐竜の本がたくさんあることを紹介出来たし、またちぎっている紙が日本の伝統の紙である事を説明できたし、何よりも先生と協力して授業が出来たので大満足していると、先生が出来上がった恐竜を使って子どもたちと遊び始めたのです。私はそこまで考えていませんでした。ガーナの先生が実践した発展型授業に、とてもうれしくなりました。またこの先生は、授業の終わりに絵本を手に取り、恐竜の説明をしたのです。「図書館には恐竜の本がたくさんあるから見てね。」と言うだけだった私の説明に、先生が加えて説明してくれたことが、とてもうれしく思えました。こうした先生方がいると、本に興味を持ってくれる子どもが出て来そうです。絵本の楽しさを子どもたちに知ってもらおう活動はこれからも試行錯誤しながら続きます。

図書館建設サポーター 一般社団法人ギブアウェイ様

プロジェクトサポーター KAWASHO FOODS(GULF)FZE 様

フェリシモ基金事務局様 矢東タイヤ様

